



大晦日の縁起もの・年越しそば



今年も残りわずかとなり、この前夏休みが終わったと思ったらもう冬休みの時期になってしまいました。

年末の風物詩として『年越しそば』という大晦日に縁起を担いで食べるそばがありますが、どうしてそばをたべるようになったのでしょうか？

＜年越しそばを食べるいわれ＞

一年の締めくくりの大晦日に食べる年越しそばは「人生はそばのよう細く生きる」という意味で食べるという説はよく聞きますが、それがどうしてそばでなければいけないのでしょうか？年越しそばの風習が始まったのは江戸時代の中期ごろですが、じつはこのほかにもいろいろな説があるようです。

- ① さきほどの定番の「細く、長く」というのももちろんありますが、関西のほうではそばではなく、運を運ぶ「うんどん（うどん）」を食べて「細く、太く」と願うところもあるといいます
 - ② そばは箸で持ち上げると切れやすいということから「一年の苦労を切り捨てよう」として食べるというもの
 - ③ そばは強い風や雨に当たって倒れそうになっても、日に当たるとすぐに立ち直る植物なのでそれにあやかって
- ・・・と諸説あります。

大晦日は、お正月の準備を終え、一晩中眠らずに神様を迎える日といわれます。この大晦日の日に早く寝てしまうとしわが増えるとか白髪になるという言い伝えがある地方もあります。

夕飯や夜食として食べるもし、かけそばでもざるそばでも食べ方の決まりはありませんが、年越しそばは年内に年を越す12時間前には食べ終わらなければならず、年を越してから吃るのは縁起が悪いとされていて、そのそばを残すと翌年の金運に恵まれないなどといわれます。でも、福島県の会津地方などでは大晦日でなく元旦にそばを食べるというところもあります。その他に、沖縄県では沖縄そばを、新潟県の小千谷地方では1月14日の小正月の前日に食べる風習もあります。

年越しそばを食べるときには一年を無事に過ごせたことを感謝して、家族で食卓を囲むのも良いでしょう。

一年が過ぎるのはあっという間ですが、いろいろなイベントがある年末年始と冬休みを安全で楽しくお過ごしください。そして新年、また元気な笑顔で会いましょう！

良い年を
お迎え下さい